



みずみどり

2020年 8月1日 第139号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.cocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

蜜（みつ）の吸い方

公園や道路際の植え込みに香りの強い小さな白い花が咲いています。これはスイカズラの仲間のアベリア（和名ハナツクバネウツギ）で6月頃から秋まで長い間咲き続けるので、いろいろな虫たちが蜜を吸いにやってきます。小さなユリのようなロート状の花に来る虫達の吸蜜の作法もいろいろで面白いです。

私も花をとって吸ってみましたが、ハチが吸った後だったのか甘みは感じませんでした。子どもの頃ツツジの花の蜜を吸って遊びました。ツツジの蜜は甘かった。今の子ども達はそういう遊びはしないのでしょうか。アベリアの仲間のスイカズラは「吸い葛」の意味で、細長い花筒の奥の蜜を吸って遊んだことから来た名前です。スイカズラの英語名はハニー サックル（サックルは「乳を吸う」の意味）。きっと甘いのでしょう。

今日7月9日、カラスアゲハとアゲハチョウが蜜を吸っていました。これまで撮った虫たちの写真を見ていたら、アベリアの蜜に来た虫たちが結構多いのに気づきました。



チョウチョでは、大きなアゲハ、カラスアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハ、中ぐらゐのアカタテハ、小さいイチモンジセセリもアベリアの花に来ていました。モンシロチョウは来ない。チョウチョは、普段はぐるぐる巻きになったストローの様な長い管（口吻）を伸ばして差し込み蜜を吸います。チョウによってこの口吻の長さがいろいろで、アベリアの蜜が吸えないチョウもいるようです。イチモンジセセリは小さくても口吻が長いようです。



大きなチョウチョが小さな花にストローを差し込んで蜜を吸う。



小さなセセリチョウでもアベリアの蜜が吸える

アベリアには、ハチの仲間もやってきます。

下手な写真ですが、写真左下はアベリアの花に潜り込むニホンミツバチ？、右下はマルハナバチ♀で、むりやり花に潜り込もうとしています。花粉だけかもしれません。



下左はクマバチ。花を抱え込むようにして、花の根元に穴を開けて蜜を吸います。花粉を媒介せずに蜜だけ頂戴するので盗蜜というそうです。

下は、オオスカシバという蛾です。羽が透明な3cmほどの大きな蛾で、花に留らず飛びながら蜜を吸います。器用な虫ですね。

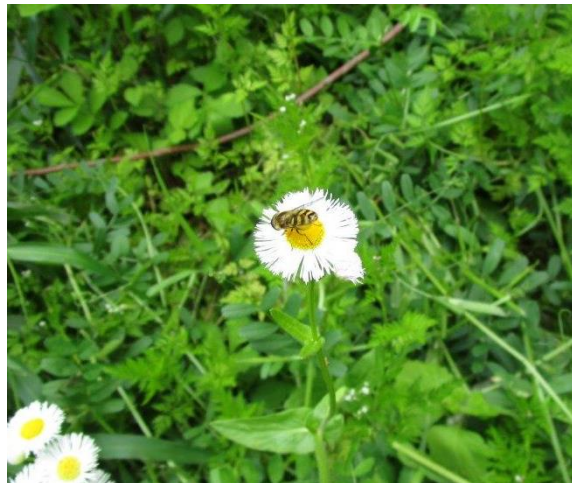


アベリアには、ハナアブの仲間もよく来ます（ハナアブは次頁上）。ハナアブはハエの仲間ですが、見た目はハチのようなハエのような虫です。花の蜜を吸うのか、花粉を食べるのかわかりませんが、名前のおり花によく来ます。2cm位の大きなハナアブから5mm位の小さなハナアブがアベリアにも来ていました。小さなハナアブは花粉をかじっているようでした。

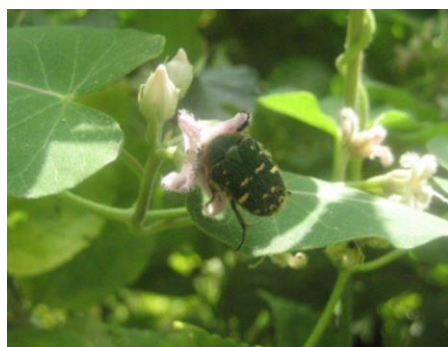
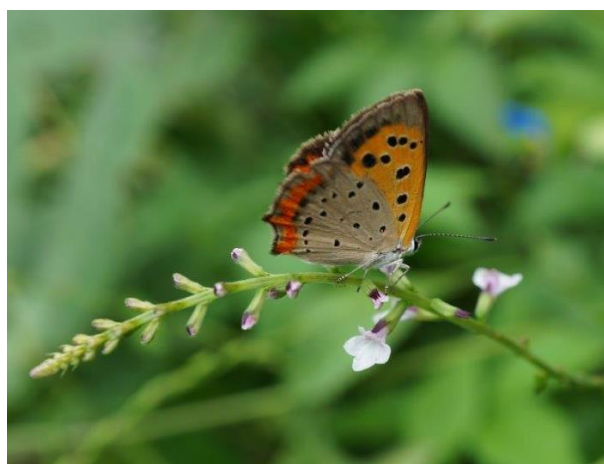
さて、7月半ば、アベリアは花も一緒に葉刈りされ、花はしばらくお預けになりました。

バッタ広場の花に来る虫たちもいます。花は花だけ、虫は虫だけ見ては駄目ですね。撮った写真を見ると花に来る虫たちの習性がわかります。

写真左下（ひどいピンぼけですが）と右下はどちらもハナアブの仲間です。



小さいチョウチョは小さな花に来ます。



左の2枚は、コガネムシの仲間のコアオハナムグリです。ハナムグリの名前の通り、花にきて、花の蜜や花粉を食べるようです。左の植物はイノコズチ、あまりおいしそうに見えませんが、蜜や花粉があるのでしよう。

夏から秋にかけてかわいい花が咲くヒメジョオンは、丈が高いためか区立公園では除去すべき害草扱いです。ヒメジョオンには昆虫たちがよくやってきます。生物多様性の保全の視点から、人の迷惑にもならず、虫と共存している雑草の花を大目に見てほしいと思います。

庭やベランダに生きもの達を

先日不和さんから庭の池から育った豆カエルの写真が送られて来ました。猪鼻さんのお宅では池をつぶしてしまいましたが、すいれん鉢にカエルが卵を産み、オタマジャクシになってカエルになるそうです。



一方、自然が豊かな赤塚に住む方の話、以前は近所の湧き水の池にオタマジャクシが生まれ、カエルが踏みつけるほどいたが、湧き水はなくなり、建物が建ち、最近ではカエルは全然見なくなったと話されました。

赤塚美術館横のとんぼ池は、緑の崖線にあり、毎年カエルが来て産卵しますが、オタマジャクシはカルガモ等（ヘビやザリガニもいる。知らないだけでオタマジャクシを食べる他の生き物もいるでしょう）に食べられてしまいます。カエルも少なくなりました。

とんぼ池って意味がないじゃん、と思えたりします。

カエルに限っていえば、天敵が少ない庭の池の方が安全かもしれません。とんぼ池はカエルを餌とするヘビやザリガニや水鳥にとって住みよい場所なのでしょう。

以前新宿区に住んでいたとき、「ベランダに生き物を呼ぼう」という公園課の事業に申し込んだことがありました。チョウチョが好むアベリア、ブッドレア、ユズ、野鳥が食べるムラサキシキブなど実のなる木の寄せ植えが届けられ、観察した生き物を報告しました。私の住まいは目白通りから少し入った都心の集合住宅の3階、プランターはそのちょっとしたベランダに置きましたが、在宅時間は短く、本当に生き物が来るのか心配で、目を皿のようにして探し小さなハナアブを見つけたときはほっとしました。

すぐにユズの木にアゲハが何度も卵を産み（アゲハはアベリア等の蜜を吸いに来て、ユズを見つけて卵を産んだのでしょう）大きな芋虫になると、鳥が来て食べてしまいました。ヒヨドリが木の実を食べ、コカマキリの卵から小さなカマキリの子どもが出てきて、風に飛ばされてどこかへ行ってしまいました。本号の「蜜の味」で紹介したチャバネセセリ、オオスカシバ、クマバチは板橋（小豆沢）に移ってからアベリアにきたところを撮影したものです。通りすがりより、ベランダの方が生き物達とよく出会えます。プランターの横に、植木鉢用の皿に水を入れておいたら（ときどききれいにし、いつも水があることが大切）、野鳥がたまに水を飲んでいました。植木鉢の植物が枯れたまま放っておいたら、パサパサの土でスズメが土煙をあげて砂浴びしているのには困りました。

まちなかのベランダでも生き物達は活用しています。

足立区の桑袋ビオトープ公園では、公園に生き物が来やすくするための方法、家庭でも生き物がやってくる工夫（手のひらビオトープのすすめ）を紹介していました。トンボが来る睡蓮鉢や雑草が茂っているプランターなどが展示されていました。

エコポリスセンターでは、施設の外で緑のカーテンが作られています。そばに大きなコンクリートのプランターがあります。ここに生き物がやってくる植栽をして紹介すれば、生き物も喜ぶし、エコポリスセンターの趣旨もPRできると思います提案しましたが、実現していません。

公園では年に何度も全部きれいさっぱり草刈します。人が利用しない縁などを、野草が生え、せめて花が咲きおわるまで、残していただくと、虫や鳥たちも喜ぶと思うのです。人間のための花壇はきれいです。でもパンジーよりも、野草（雑草）の方が昆虫との相性がよいはずですよ。なぜなら野草は子孫を残すために蜜を出して虫を呼びますが、園芸種には子孫を残す配慮は必要ないからです。「生物多様性」、「自然と共生する」というけれど、ちょっとした実践で生き物と友だちになれるって、楽しくない？



上の写真2枚はバッタ広場のセイタカアワダチソウの花です。花にとまっている虫は左がツチバチの仲間、右はカメムシです。蜜？花粉を食べているのでしょう。

バッタ広場に生えるセイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、ハルジオンは外来種ですが、虫たちが多く訪れるので、抜かずにそのままにしています。

先のアベリアには、ストローの長いアゲハや、細長い花の中に潜り込める虫しか利用できません。だから、虫たちには、季節ごとにいろいろな種類の花が咲くことが重要です。

虫たちのために雑草の花もよろしく。

観察記録（6月、7月）

とんぼ池

アカミミガメ小、ザリガニ、カルガモ、アオダイショウ、オオシオカラトンボ♂、オオシオカラトンボ交尾、オオシオカラトンボ産卵、クロスジギンヤンマ、ナナフシモドキ、セアカツノカメムシ、ゴマダラカミキリ、ウメエダシャク、キアシドクガ（幼虫とサナギ）、セスジナガキマワリ？

城址・バッタ広場

タマムシ、クマバチ、ナナホシテントウ、オオスカシバ、イオウイロハシリグモ、カメノコハシ、ホシハラビロヘリカメムシ、ホオズキカメムシ、ノコギリカメムシ、キタテハ、アゲハ、キアゲハ、アカボシゴマダラ、ゴマダラチョウ、モンシロチョウ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、ツマグロヒョウモン♀、オオウンモンクチバ、オオシオカラトンボ♀、クサグモ採餌、コフキゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、マメコガネ、セマダラコガネ、コフキコガネ、オンブバッタ幼、ショウリョウバッタ幼、ハラビロカマキリ幼、オオカマキリ幼、クビキリギリス幼、ゴミグモ、カナヘビ、ヒバカリ、



7月初め、城址は草刈。

バッタ広場の外側10mは刈らずに残してもらいました。

ここは、バッタたちが安心して暮せる草地。草刈は年に1回（冬）だけ。

バッタ広場入口の生き物達の暮らしを紹介する看板をリニューアルしました。



活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）または
坂本 090-4618-1295

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

8月22日（土）10:00～11:30 バッタ広場の手入れ（草刈り）

9月26日（土）10:00～11:30 バッタ広場の手入れ（草刈り）

集合場所：赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、蚊も出てきました。

2 赤塚城址自然観察会（第2日曜日）

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。生きものは観察したら自然に返してね。30分程度ササ刈り等もやります（カマは用意します）。

小雨でも実施。連絡先：事務局まで

8月9日（日）10:00～11:30

9月13日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：長袖の服、あれば双眼鏡、虫眼鏡、図鑑、虫よけ

3 日暮台公園と樹林地の観察

8月2日（日）10:00～11:30

9月6日（日）10:00～11:30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。定点の観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。